

ウエルナー症候群 患者・家族会の皆さま

ご無沙汰しております。千葉大学の横手です。

皆様、それぞれの場所とお立場で 精一杯頑張っていることと存じます。所用にて関東を離れることができず、近畿中部地区（九州地区）患者会へお伺いすることが叶いませんが、ひと言ご挨拶させていただきます。

2015年は、ウエルナー症候群が難病に指定された記念すべき年となりました。これは、ひとえに遠藤博之さんを初め、多くの患者さんやご家族の熱い想い、そして長年にわたるご尽力の賜物と、改めて感銘を覚えています。

一方で、日本中の多くの患者さんが、足の潰瘍や心臓・血管の病気、がんなど多くの合併症に悩まされ、大きな不安をもって生活されていることは、今日も変わりません。

まず、「ウエルナー症候群のことをよく知っている医師に診てもらいたい」というご意見を耳にいたします。このため、全国各地でウエルナー症候群の診療経験がある医師／病院のリストを作成することなども考えていきたいと思っております。

また、ウエルナー症候群の合併症に有効性が高いと思われるお薬や治療法の情報を集約し、日本中の医師が活用することのできる「治療の手引き（ガイドライン）」を改訂していきたいと思っております。

そして何より、現在 研究段階にある“新しい治療薬”を 診療の現場に引き上げ、患者の皆さんの治療へ実際に役立てられるようにすることを 引き続き真剣に検討していきます。国内外の企業や大学において、可能性のあるお薬の候補が複数開発されつつありますので、今後もその進捗について、皆さんと情報を共有していきたいと思っております。

早いもので11月も末となり、冬を感じるようになってきました。風邪などひかれませぬようくれぐれもご自愛ください。患者会のご盛会を祈念しますとともに、皆様とまたお目にかかれることを楽しみにしております。

平成 27 年 11 月 千葉大学医学部 横手幸太郎